

メディアによる報道

本事業の取組が中京テレビのニュースにて報道されました。

<https://x.gd/hyuYt>



メディアによる報道

本事業の取組がの柏崎日報の紙面にて取り上げられました。

案、中歴に多くの補綴を計画し、地域からの思いをメッセージにする「よちんこメモリアルツリー」の完成も目指す。記念式典は10月26日、記念式典は11月16日の予定。



3日間の集中作業の末、完成した社会課題解決アプリを発表する参加学生＝市役所多目的室

アプリで課題解決へ

日本JIC 2大学22人が集中開発

新潟産業大、新潟工科大生が3日間かけ、社会課題を解決するアプリシステムの開発に取り組んだ。日本青年会議所(日本JIC) 社会グループ社会構想会議(通称社会構想会議「江JCI」)の本年度事業「ハッカソンの一環で、柏崎青年会議所(柏崎JIC)、海津橋太理事長が協力をした。ハッカソン(「ハック+マラソンの英語)は、主に十萬界で行われているイベント。一定期間で決めら

れたテーマに対するシステマ作りを行う。同会議は同事業を全国10カ所で行予定し、柏崎が4カ所目。22人の参加は過去最大規模となった。マサチューセッツ工科大の開発ツール「アップインベーター」を使用し、デジタル人材の育成も目的。完成したアプリは、行政や民間で実用化の可能性も秘める。

学生は5グループに分かれ、初日の5日は市村が抱える社会問題をフィールドワークで抽出・ヒアリング。2日目にワークショップとアプリ開発に着手した。中間発表ではアドバイサーから厳しい意見が飛び交ったが、学生たちは奮起し、深夜まで開発やプレゼン準備を遂げた。

最終日の成果発表で各グループは、問題分析やアプリの使用方法も含めて提案した。最優秀賞は小山 隆輝さん(工科大修士1年)、加藤博一さん(工科大4年)、佐藤風彦さん(産大4年)、林川 敬喜さん(同2年)の「Yes! 働matech」。働期間の人手不足に学生週期バイトを募集。学生にとっても就業経験が就職時に有利となり、また県内農業系学校

の学生を柏崎刈羽と結びつける役割も担えるとした。

佐藤さんは「他大生と一緒にだったことは前段と違う視点が得られ、解決へのアプローチが多様化できた。相手に売り込むプレゼンも初体験。つらかったけど抱負が軽減された」とホッとした表情。開発担当の小山さんは「タイトなスケジュールに、システムエラーも頻発した。実際に使いたいと思ってもらえるか、今までに経験したことがない視点で取り組めた」と糧にした。

講師で前田村長は「課題をもっと掘り下げると、本来の策が思いだせる」と、激励した。嶋田議長(38)は「一人ではできない大きなことも、仲間と取り組むことで可能になる。大人も奮め、今回できたつながりを将来の好機にしてほしい」と伝えた。

開催に協力した同会議委員で、前柏崎JIC理事長の平川尚さん(37)は「モチベーションの高い学生が集まってこれ、期待を上回る成果を上げてくれた」と言い、「この先も柏崎JICがハブとなり、行政や2大学とさまざまな事業を構築

創造していければいい」と話した。

◆上越市立歴史博物館で「徳川四天王梅原康政の系譜」

上越市本城町、高田城址公園内の上越市立歴史博物館で、企画展「徳川四天王梅原康政の系譜―種代名門の史料とその歴史―」が開かれていた。

梅原家の藩祖康政は「徳川四天王」と称された武將。梅原家は飯林以来、白岡・姥路・村上など各地の戦術の藩主を継いだ。寛保元(1741)年に高田へ転じ、以後明治4(1871)年まで約130年間にわたり、高田藩主を務めた。開展では、2004年に地元へ里帰りを果たした梅原家史料(遺指定文化財)を中心に、「高田の縁さま」として親しまれた梅原家の歴史を最新の研究成果とともに紹介している。

会期は、前期が9月1日まで、後期が9月6日、11月4日、月曜休館(月曜日が祝日のときは休日)。入館料は一般510円、小中高校生260円。問い合わせなどは同館(電話025・524・3120)へ。

メディアによる報道

本事業の取組が宮崎放送(JNN系列)のニュースにて取り上げられました。
<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/mrt/1071585>



ニュース 天気 テレビ ラジオ アナウンサー イベント・

高校生や大学生がアイデア出し合う 地域課題解決のためのワークショップ



2024年3月24日(日) 13:33

国内

メディアによる報道

本事業の取組が複数のメディアにて取り上げられました。

福井テレビ

<https://gyo.tc/1ciyf>



FBCテレビ

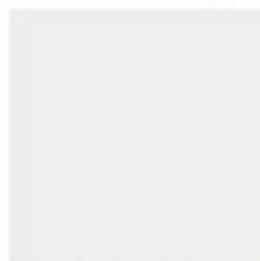
<https://gyo.tc/1cki4>

Yahooニュース

<https://gyo.tc/1ckhk>

坂井市の“地域課題”解決へ 地元の高校生がアプリ開発 東尋坊のリピーターを増やすには？

7/15(月) 16:14 配信



アプリ開発中の高校生ら - 15日午前10時ごろ、坂井市丸岡町

坂井市の高校生が、観光や交通など地域の課題解決に向けたアプリを開発し、若者らしい目線で元気づけるアイデアを提案しました。坂井市ではこの三連休、高校生による地域の課題解決をテーマにしたイベントが開かれ、坂井高校と丸岡高校の生徒合わせて14人がアプリの開発に挑戦しました。生徒たちは3つのグループに分かれ、青年会議所のサポートを受けながら、観光や地域交通といった課題を見つけ、フィールドワークも交えて解決策を探りました。このうち、東尋坊のリピーターを増やす方法を探ったグループは、未来の自分宛てに写真とメッセージを送り、再び東尋坊を訪れた際に二次元コードを読み取ると、メッセージが開けるといったアプリを開発しました。

■参加した生徒「そもそも課題を見つけるのが難しかった。見つけてからも課題をどうやって形にして、解決する方法とか手段を見つけたりするの難しかった」開発したアプリは坂井市に提供し、課題解決に役立ててもらおうということです。